

# 学生確保の見通し等を記載した書類

## 目 次

1. 入学定員設定の考え方及び定員を充足する見込み	
(1) 「情報工学先進コース」設置の経緯	3
(2) 入学定員設定の考え方	4
(3) 定員を充足する見込み	5
2. 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果	8
3. 養成する人材の社会的要請や人材需要の動向	
(1) 養成する人材	9
(2) 国内における高度情報人材の需要	9
(3) 岡山における高度情報人材の需要	10

## 1. 入学定員設定の考え方及び定員を充足する見込み

### (1) 「情報工学先進コース」設置の経緯

令和3年度に、旧工学部と旧環境理工学部の統合再編によって現在の工学部が誕生した。工学部の養成する人材像は、社会の要請に応じ、「幅広い視野をもち、社会課題を発見・把握し、主体的に解決できる創造的な工学系人材」であり、新たな工学系教育プログラムの特色は、「Society5.0 for SDGs の実践的教育」である。工学部全体を工学科1学科（入学定員610名）として学科内に教育課程をベースとした「系」を置くことにより、学生の志望の変化や専門分野の人材養成に関する社会の要請の変化に柔軟かつ速やかに対応できるようにしている。具体的には、機械システム系（目安定員160名）、環境・社会基盤系（目安定員90名）、情報・電気・数理データサイエンス系（目安定員190名）、化学・生命系（目安定員170名）の4つの系を置いている。各系には、Society5.0の実現に必要な専門的技術を学生の興味に応じて系統的に修得できるように、複数の教育カリキュラムを「コース」として設定し、コースごとの特長ある教育プログラムを通じて先端技術を国内外及び地域に還元できる高度専門技術者および研究者を養成している。特に、情報・電気・数理データサイエンス系には、情報工学コース（目安定員60名）、ネットワーク工学コース（目安定員50名）、エネルギー・エレクトロニクスコース（目安定員50名）、数理データサイエンスコース（目安定員30名）の4つのコースを設定している。

このように、令和3年度の工学部の再編における特徴は、Society5.0の実現に中心的な役割を果たす情報人材を育成するために情報・電気・数理データサイエンス系に最大の目安定員を割り当てたことと、段階的に専門領域の絞り込みを行うコース制を採用することにより各人の専門領域に対するマッチングの確率を高め、意欲的に学びに取り組める枠組みとしたことであった。一方で、入学前から強い意思を持ってデジタル・AI・情報工学を学びたい受験生の存在への対応が課題として明らかになった。多くの受験生が、「工学」で学べる内容の理解や卒業後の進路について、情報不足や理解不足に陥る一方で、大学入学以前からデジタル・AI・情報工学に強い興味、夢、志をもって受験する者が一定数存在することも事実である。旧工学部の情報系学科の志願倍率は年々上昇して令和2年度（2020年度）には3.15倍となった。新工学部の情報・電気・数理データサイエンス系の志願倍率も2倍前後で推移している。この系のコース希望調査によれば、入学直後の段階で情報工学コース（目安定員60名）を第1希望とする学生は114名となっている。現状の教育プログラムの構成では、このようなニーズに対応することができておらず、工学部再編の学年進行中ではあるものの、情報工学コースの定員増が喫緊の課題となっている。また、高い志を持って入学する学生は、大学院への進学を希望するケースが多く、大学から大学院への進学を前提とした一貫プログラムであれば、高度なスキル、多様な視点、社会貢献の動機付けなど、6年間を有効に活用することによって現在のプログラムでは実現できない人材育成が可能だと考えられる。

上記の課題を解決するとともに、今後のデジタル化社会に求められる高度情報人材を養成するため、現在申請中である文部科学省の大学・高専機能強化支援事業（高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）を活用して、令和6年度から工学部工学科に、募集人員40名の「情報工学先進コース」を設置し、学部から大学院博士前期課程にいたる6年一貫教育プログラムを構築する。40名の内、10名については工学部内の定員を移動して実現する。なお、このコースは、機械システム系、環境・社会基盤系、情報・電気・数理データサイエンス系、化学・生命系とは独立に設置し、大学院進学を前提とした入学者選抜を実施する。

## (2) 入学定員設定の考え方

令和3年度に4系1学科制へ改組した工学部では、情報系人材を育成する情報・電気・数理データサイエンス系（目安定員190名）に対し、令和5年度の志願倍率は2倍であった。同系学生へのアンケート調査（令和5年4月実施）（【資料1】）では、情報工学コース（目安定員60名）へ114名もの多くの学生が配属を希望している。大学院への進学意欲を持つ学生は、コース配属前の1年生で94.0%、情報工学コース配属済みの2、3年生で83.8%であることから、学年進行後も大学院への進学希望者の割合は安定している。大学院進学意欲の高い1年生のうち大学院で情報工学分野を希望する者は73.3%（77名）であり、このうち「6年一貫コースがあったら受験していた」と回答していた学生は77.9%（60名）である。以上のことから、大学院進学を前提とした「情報工学先進コース」を新設した場合、学部・大学院それぞれ60名程度の学生確保が見込まれる。なお、新たに編成する教育課程に対応するため、教員の確保や教育設備等のキャパシティを総合的に勘案し、募集人員を40名とする。

また、本学のベンチマークとなる大学における情報工学関連の学部の定員を表1に示す。この表から、情報工学以外の分野も含む学部の定員は情報・電気・数理データサイエンス系の目安定員190名と同程度かそれ以下、情報工学のみからなる学部の定員は100名程度に設定されていることがわかる。「情報工学先進コース」の募集人員を40名に設定することにより、本学の工学部では情報・電気・数理データサイエンス系の情報工学コース（目安定員60名）と合わせて100名の情報人材の養成が可能になる。今後、他大学においても情報系人材の募集が増員されることを勘案しても、本学で100名の情報人材を養成することは、大学・高専機能強化支援事業に採択された場合に本学において整備・充実を図る教員及び教育環境等デジタル・AI・情報工学の教育資源の下で質の高い教育を維持するためには適切な数字と考えられる。

表1：ベンチマーク大学の情報関連学部の定員（灰色は情報工学のみからなる学部）

大学	学部	学科	入学定員
北海道大学	工学部	情報エレクトロニクス学科	180
九州大学	工学部	電気情報工学科	153
神戸大学	工学部	情報知能工学科	107
広島大学	工学部	第二類（電気電子・システム情報系）	90
千葉大学	工学部	情報工学コース	79
新潟大学	工学部	情報電子分野＋電子情報通信プログラム	130
金沢大学	理工学域	電子情報通信学類・情報通信コース	39
長崎大学	情報データ科学部	情報データ科学科	120
熊本大学	工学部	情報電気工学科	149
香川大学	創造工学部	情報システム・セキュリティコース	35
愛媛大学	工学部	コンピュータ科学コース＋応用情報工学コース	80

(3) 定員を充足する見込み

「情報工学先進コース」の募集人員40名を充足する見込みの有無を調べるため、岡山県内の5つの高校を対象にアンケート調査を実施した（令和5年5月実施）（【資料2】）。アンケート調査実施校と各高校の学年ごとの回答者数を表2に示す（高校名が不明となっている2名は、高校名を入力する欄に誤って氏名を入力した者である）。各高校には、理系クラスの2年生と3年生および工学部に興味をもっている1年生を対象にアンケート調査実施を依頼した。アンケート調査実施校は毎年多くの生徒が岡山大学工学部を志願している高校の中から選出した。実際、表3に示すように、5校の志願者数はいずれも2023年度岡山大学工学部一般選抜（前期日程）の志願者数上位22校の中で高い割合を占めている。

表2：アンケート調査実施校と学年ごとの回答者数

高校名	1年生	2年生	3年生	計
A高校	5	42	16	63
B高校	1	165	157	323
C高校	111	112	131	354
D高校	2	87	82	171
E高校	2	11	11	24
不明	1	0	1	2
計	122	417	398	937

表 3：2023 年度岡山大学工学部一般選抜（前期日程）の志願者数（上位 22 校）

	志願者数	
上位 22 校	264	
(内数) A 高校	16	} 59
B 高校	15	
C 高校	12	
D 高校	8	
E 高校	8	

質問 3「高校を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。（複数選択可）」に対する回答結果を表 4、質問 4「大学入学と同時に専門分野を学ぶためのコースに配属されることについて魅力的だと思いますか。」に対する回答結果を表 5、質問 5「上記設問 1.の回答で①～③を選択した方に質問です。現時点で大学院への進学をどのように考えていますか。次より一つ選択してください。」に対する回答結果のうち、質問 3 で③電気通信工学（情報工学を含む）を選択した生徒の回答結果を表 6、質問 6「情報工学分野を志望する人にとって、情報工学先進コースは魅力的だと思いますか。」に対する回答結果を表 7 に示す。

表 4：質問 3「高校を卒業後、興味のある学問分野を選択してください」に対する回答結果

選択肢	1 年生	2 年生	3 年生	計	割合(%)
① 機械工学	31	80	87	198	21.13
② 土木建築工学	21	45	37	103	10.99
③ 電気通信工学(情報工学を含む)	46	101	102	249	26.57
④ 数学(データサイエンスを含む)	27	54	31	112	11.95
⑤ 応用化学(生命工学を含む)	38	103	67	208	22.20
⑥ その他	40	183	169	392	41.84

表 5：質問 4「大学入学と同時に専門分野を学ぶためのコースに配属されることについて魅力的だと思いますか」に対する回答結果

選択肢	1 年生	2 年生	3 年生	計	割合(%)
① 思う	85	230	227	542	57.84
② 少し思う	36	156	133	325	34.69
③ あまり思わない	1	21	26	48	5.12
④ 思わない	0	10	12	22	2.35

表 6：質問 5（質問 4 で①～③を選択した場合）「現時点で大学院への進学をどのように考えていますか」の回答結果のうち、質問 3 で③電気通信工学（情報工学を含む）を選択した生徒（249 名）の回答結果

選択肢	1 年生	2 年生	3 年生	計	割合(%)
① ぜひ進学したい	6	19	30	55	22.09
② できれば進学したい	7	24	18	49	19.68
③ 入学してから検討する	33	46	51	130	52.21
④ 進学しない	0	8	1	9	3.61
未回答	0	4	2	6	2.41

表 7：質問 6「情報工学分野を志望する人にとって、情報工学先進コースは魅力的だと思いますか。」に対する回答結果

選択肢	1 年生	2 年生	3 年生	計	割合(%)
① 思う	96	254	255	605	64.57
② 少し思う	25	133	122	280	29.88
③ あまり思わない	1	18	10	29	3.09
④ 思わない	0	12	11	23	2.45

質問 3 で③電気通信工学(情報工学を含む)に興味があると回答したのは 249 名(26.57%)、質問 4 で大学入学と同時に専門分野を学ぶためのコースに配属されることを魅力的だと思うと回答した生徒は 542 名 (57.84%) であった。また、現時点での大学院進学意欲を尋ねる質問 5 で、質問 3 において③電気通信工学（情報工学を含む）に興味があると回答した 249 名のうち、ぜひ進学したい、できれば進学したいと回答した生徒は 104 名（41.77%）、入学してから検討すると回答した生徒は 130 名（52.21%）で、電気通信工学（情報工学を含む）分野に興味がある生徒の 9 割以上が入学前から大学院進学について検討しているか検討の余地があることがわかる。さらに、質問 6 で「情報工学先進コース」を魅力的だと思うと回答した生徒は 605 名（64.57%）であったことから、入学時から専門分野を学び、学部と大学院の 6 年間一貫教育を行う「情報工学先進コース」は受験生にとって魅力的であることが明らかになった。

具体的に受験の可能性について尋ねた質問 7「情報工学先進コースが開設された場合、受験を志望しますか。」に対する回答結果を表 8 に示す。1 年生については、まだ文系・理系の進路が定まっていなくても、「第一志望として受験する」と回答した割合は 4.92%（6 名）と 3 年生、2 年生の割合に近く、「情報工学先進コース」に関心を持っていることがうかがえる結果となった。理系クラスで進路がある程度定まっている 3 年生と 2 年生の回答では、「第一志望として受験する」と回答した生徒は 3 年生 21 名（5.28%）、2 年生 22 名

(5.28%)であり、表3の志願者数の合計が264であるのに対してアンケート調査実施校の志願者数の合計は59であるから、各学年の人数を単純に $264/59 \approx 4.5$ 倍すると、3年生94.5名、2年生99名となる。このことは、募集人員40名の2倍以上が「情報工学先進コース」を第一志望として受験する可能性を示唆している。以上から、「情報工学先進コース」の募集人員は十分に確保できると考えられる。

表8：質問7「情報工学先進コースの受験を志望しますか」に対する回答結果

選択肢	1年生	2年生	3年生	計	割合(%)
① 第一志望として受験する	6	22	21	49	5.23
② 第二志望として受験する	30	46	49	125	13.34
③ 第三志望以降として受験する	49	101	47	197	21.02
④ 受験しない	37	248	281	566	60.41

質問8「情報工学先進コースを受験して合格した場合、入学を希望しますか。」に対する回答結果を表9に示す。「入学する」と回答した生徒の人数は、いずれの学年においても、質問7で「第一志望として受験する」と回答した生徒の人数の2倍以上になっている。このことは第二志望以降として情報工学先進コースを受験する場合でも、合格すれば入学する可能性が高いことを示している。

表9：質問8「情報工学先進コースに合格したら入学を希望しますか」に対する回答結果  
(質問7で「受験しない」以外を選択した371名が対象)

選択肢	1年生	2年生	3年生	計	割合(%)
① 入学する	18	47	48	113	30.46
② 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	65	116	66	247	66.58
③ 入学しない	2	6	3	11	2.96

## 2. 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

岡山大学は毎年8月上旬に、高校生を対象にしたオープンキャンパスを開催している。工学部でも2日間で約2000名の高校生を受け入れ、系・コースの説明、現役学生からの談話、研究室見学等のイベントを実施している。そこで、オープンキャンパスにおける工学部のイベントに参加する高校生全員に「情報工学先進コース」の案内チラシを配布するとともに、オープンキャンパス終了直後に「情報工学先進コース」の説明会を開催する。説明会ではコースの理念、教育プログラムの特徴、情報工学コースとの違い、入学者選抜方法などを説明するとともに、質疑応答の時間を十分に確保して参加者の相談に応じる。特に、情報工



学コースとの違いについては、情報工学コースは入学後1年を掛けて希望コースを選択し、かつ卒業後の進路もじっくり検討して決めたい人に適しており、「情報工学先進コース」は入学前から情報工学分野への進路希望が固まっていて大学院進学の高い意思を有する人に適していることを強調して説明する。約2000名の高校生に案内チラシを配布することで、受け取る本人だけでなく周りの友人にも「情報工学先進コース」の情報が広がることが期待される。

また、岡山大学工学部では、「大学院生によるロールモデル紹介を通じた高大連携事業」という名称で、工学部出身の優れた大学院生を出身高校に派遣し、高校1、2年生に向けて大学生活や研究活動に関する話をしてもらうとともに、岡山大学工学部の紹介を行っている。この事業を活用し、「情報工学先進コース」の優れた学生を教員とともに出身高校に派遣し、「情報工学先進コース」の魅力を伝える取組を行う。優れた先輩から直接話を聴くことによって生徒の興味は増幅され、「情報工学先進コース」に入学し、今度は自身がロールモデルとして後輩に話をする、という好循環が生まれることが期待される。

以上の他、ウェブページやSNSを利用して「情報工学先進コース」の魅力や学生の活躍（プログラミングコンテスト等の実践的活動の成果など）を発信する取組や、高校生による大学訪問、オンライン入試説明会、高校教員と岡山大学工学部教員の懇談会等の各種イベントを通じた「情報工学先進コース」の広報活動を行う。

### 3. 養成する人材の社会的要請や人材需要の動向

#### (1) 養成する人材

「情報工学先進コース」では、入学前から情報工学分野に進むことを強く希望し、かつ大学院進学を明確に意図している学生を対象に、大学院環境生命自然科学研究科環境生命自然科学専攻（博士前期課程）数理情報科学学位プログラム計算機科学コースと連携した6年一貫教育プログラムを実施する。入学時からコースに配属される利点を生かし、早期に専門分野の先端研究に触れる科目やプログラミングコンテスト等に参加する実践型科目を配置し、それらを通して情報工学分野の深い知識や実践力・チームワーク力に加え、視野の広さと思考の柔軟さを身に付け、社会課題を発見・解決できる高度情報専門人材を養成する。

#### (2) 国内における高度情報人材の需要

独立行政法人情報処理推進機構が発行している『DX白書2023』によると、企業を対象にしたアンケート調査において、DXを推進する人材の「量」が「大幅に不足している」と回答した企業の割合は、2021年度（297社が回答）の30.6%から、2022年度（375社が回答）の49.6%に増加している（【資料3】）。また、DXを推進する人材の「質」が「大幅に不足している」と回答した企業の割合も、2021年度（298社が回答）の30.5%から、2022年度（375社が回答）の51.7%に増加している（【資料4】）。一方、2021年度に行われたIPA

「デジタル時代のスキル変革等に関する調査」(1,410社が回答)において、IT人材に今後身に付けさせるべきスキルとして企業が挙げているのは、上位から「人、プロジェクトやタスクのマネジメントスキル」(63.8%)「業務関連コミュニケーションスキル(ファシリテーション、プレゼンテーション等)」(60.0%)「先端技術領域のスキル(AI、IoT、データサイエンス等)」(52.2%)であった(【資料5】)。

以上のように、国内においてDXを推進する人材や情報人材は質量ともに不足している状況にあり、マネジメントスキル、コミュニケーションスキル、先端技術のスキルを有する高度情報人材の育成が強く望まれている。

### (3) 岡山における高度情報人材の需要

岡山における高度情報人材の需要を把握するため、おかやま AI・セキュア IoT 共創コンソーシアム(OASIS)の会員企業37社と一般社団法人システムエンジニアリング岡山(SEO)の会員企業79社の採用担当者を対象にアンケート調査(【資料6】)を実施した。OASISは、岡山県「大学と連携した地域産業振興事業」の一環としてAI・IoT・セキュリティ関連技術分野における多面的な連携による共同研究の促進を図るコンソーシアムであり、岡山大学が幹事校を務めている。SEOは、高度情報化の進展に伴いコンピュータ利用技術の向上及び発展を図り、情報化の促進、生産技術の向上・革新・振興を通じ、地域・経済社会に貢献することを目指す地域情報産業団体である。30社から38件の回答が得られた(同一企業でも部署ごとに採用を行っている場合は複数の採用担当者が回答している)。30社の内訳は情報通信業19社、製造業10社、その他(アパレル資材卸売業)1社である。

アンケート結果を表10から表14に示す。表10と表11は情報人材の「量」と「質」に関する結果である。岡山においても情報人材は質量ともに不足していることがわかる。

表10：質問3「社内の情報人材の「量」」に対する回答結果

選択肢	回答数	割合 (%)
① やや過剰	0	0.0
② 過不足なし	2	5.3
③ やや不足	26	68.4
④ 大幅に不足	10	26.3
⑤ わからない	0	0.0

表 11：質問 4「社内の情報人材の「質」」に対する回答結果

選択肢	回答数	割合 (%)
① やや過剰	0	0.0
② 過不足なし	4	10.5
③ やや不足	26	68.4
④ 大幅に不足	8	21.1
⑤ わからない	0	0.0

表 12 は、情報人材に期待するスキルに関する結果である（選択肢は『DX 白書 2023』と同じに設定した）。上位から「先端技術領域のスキル (AI、IoT、データサイエンス等)」(94.7%) 「業務関連コミュニケーションスキル (ファシリテーション、プレゼンテーション等)」(76.3%) 「人、プロジェクトやタスクのマネジメントスキル」(65.8%) であり、先端情報技術の需要が極めて高いという点で多少の違いはあるものの、日本全体と類似の傾向が見て取れる。

表 12：質問 5「情報人材に期待するスキル（複数回答可）」に対する回答結果

選択肢	回答数	割合 (%)
① 先端技術領域のスキル	36	94.7
② 人、プロジェクトやタスクのマネジメントスキル	25	65.8
③ 業務関係のコミュニケーションスキル	29	76.3
④ 関連の業務知識	18	47.4
⑤ デザイン思考なども活用したビジネス企画スキル	15	39.5
⑥ 数学や芸術といった STEAM 領域や英語	7	18.4
⑦ その他	1	2.6

表 13 は「情報工学先進コース」で行う教育の必要性に関する結果であり、すべての回答が「感じる」(89.5%) または「ある程度感じる」(10.5%) であった。

表 13：質問 6「情報工学先進コース」の教育の必要性」に対する回答結果

選択肢	回答数	割合 (%)
① 感じる	34	89.5
② ある程度感じる	4	10.5
③ あまり感じない	0	0.0
④ まったく感じない	0	0.0

表 14 は「情報工学先進コース」の卒業生の採用意向に関する結果であり、すべての回答が「採用したい」（60.5%）または「採用を検討したい」（39.5%）であった。

表 14：質問 7 「「情報工学先進コース」卒業生の採用意向」に対する回答結果

選択肢	回答数	割合 (%)
① 採用したい	24	60.5
② 採用を検討したい	15	39.5
③ あまり採用したくない	0	0.0
④ まったく採用したくない	0	0.0

アンケート結果から、岡山においても情報人材は質量ともに不足しており、先端技術、コミュニケーションスキル、マネジメントスキルを有する高度情報人材の育成が強く望まれていることがわかる。また、回答のあった企業はすべて、「情報工学先進コース」で行う教育内容を必要と感じているだけでなく、「情報工学先進コース」の卒業生を採用する意向を示している。このことは、「情報工学先進コース」で養成しようとする人材の産業界における需要が極めて高いことを示唆しており、本計画が社会的な人材需要の見通しを踏まえた計画であることを示すものである。

以下に採用を希望する理由（自由記述）を示す。

- 専門分野を勉強し続ける意欲と関心を培った学生を採用したい。
- システム開発はチームワークが重要と考えており、その力が育まれた学生は魅力的と感じるため。
- より専門知識をもった学生に期待しています。
- 課題発見・解決力、実践力、チームワーク力などについて、OJT では実情に応じた偏りが出てしまっていて育成が難しいので、知識を体系的に学び、実習された方ということであれば、ぜひ採用したいと考えたため。
- 先端技術の専門性の高い教育と何よりも実践型志向による即戦力が期待される事です。
- 当社の期待する人材要件にマッチするため。
- 優秀な若手を採用したい。
- 電気・電子系の技術者は大幅に不足しており、弊社内でも不足しているため。
- 情報工学の知識と実践経験が豊富なため。
- 専門性を有する優秀な人材に活躍してもらいたい。
- よりアカデミックな視点と、これを具現化するための実践的な視点は、業界として必須となってきています。早い段階でこのような考え方に触れ、それぞれの意義を根本から理解した人材に将来を託していきたいと思えます。
- 入社後に専門分野の知識やプログラミングなどを経験するよりは、学生時代から取り組

んでいる経験者を優先的に採用している。

- 即戦力となりうる実力を持った人材であればぜひ採用したい。
- 即戦力として業務に従事できそうであるため。
- できれば即戦力がほしい。
- 生産性の向上だけでなく、「出口戦略」を見通した商品開発を行うべく人材を採用したい。
- 多様な人材を継続的に確保していきたいため。
- データサイエンスの知識をベースに様々な種類の課題に柔軟に対応できる人材であれば採用したい。
- そのような教育を受けた人材が不足しているため。
- 学科学部問わず採用を検討しているため。
- ITに関する教育を受けている事で、入社後の業務の理解や戦力としての立ち上りも早いと思われるため。
- 6年（院進学を前提とし）、学力のみならず、学びを実践に活かす力、チーム力、発想力を備えた学生に強みを感じるため。
- 即戦力に近いと思われるので。
- 情報工学に関する多様な知識・技術を得た人材は、弊社のようなIT企業にとっては、即戦力としても長期的な目線で見ても非常に貴重な存在のため。
- 今後どの業界でも益々必要となってくる分野と考えるため。
- 実践的な教育のように感じているため、即戦力として活躍できると思われる。
- アパレル業は情報技術について、遅れた産業であり、情報化についての可能性を感じると共に、人手不足の業界で業務の効率化、自動化は急務であるため。
- 情報事業に力を入れていきたいと考えているため。
- 専門性の高い知識とスキルを保有しているだけでなく、課題発見・解決力、実践力、チームワーク力も兼ね備えていらっしゃる方は、当社で活躍していただける人材として是非採用させていただきたいです。
- 業務上、必要な知識を持った人材であるため。
- 弊社社員は学生時代に情報工学系で学んだ者が多く、業務にも役立つ知識を習得した優秀な人材を採用したいため。